中日新聞（2021年9月12日付）
掲載記事は中日新聞社の許諾を得て転載しています。

Dig! ニュースを考える

今月のテーマは「多様な性とスポーツ」です。前編では多様な性を尊重しながら、公平性を保つにはどうしたらよいかを考えました。誰もが納得できるルールをつくるには、まだ議論が必要なようです。後編ではより視野を広げ、さまざまな人が一緒にスポーツを楽しむためにできることを考えます。

今月のテーマ 多様な性とスポーツ 後編

「違う」を当たり前に

努力する楽しさ共有

日本福祉大
スポーツ科学部教授
藤田紀昭（もとあき）さん

スポーツにはいろいろな魅力があります。勝ち負けは一つの目標ですが、全てではありません。最後まで諦めず自分の力を試すこと。足りない部分を把握し、向上させていくこと。野球ならバットの芯でボールをとらえて遠くへ飛ばす瞬間、陸上競走ならコーナーから直線へ出るところの風を切る感覚など、競技ごとに味わえる面白さもあります。運動が苦手な人、高齢者、LGBTQ、障害のある人など、全ての人に共通します。

五輪のモットーは「より速く、より高く、より強く」。トップを目指すだけでなく、努力に価値があるという精神です。一方で、LGBTQの人たちがスポーツに参加しにくい現状があります。環境を整えなければなりません。

競技の枠組みを変えるのも一つの方法です。例えば知的障害者のスペシャルオリンピックスのように、予選の記録で決勝の出場クラスを分ける大会をつくり、健常者、義足の人、車いすの人などが一緒に走れば、性別も障害の有無も関係なくなります。性別を問わない出場枠を増やすというやり方もあります。

誰もがスポーツを楽しめる環境をつくるには、まずは自分と違う相手に慣れること。それぞれの目標を持って努力する楽しさこそ、スポーツの価値の一つだと思います。

（許諾番号:20210914-26632）